

鉛の食品健康影響評価の骨子（案）

X. 食品健康影響評価

（総括）鉛に対するヒトへの毒性影響全体を見た上で、ヒトのデータ、小児（胎児期、新生児期、乳児期など）、成人、神経系への影響に着目（理由）

1. 有害性の確認

(1) 小児への影響

神経系への影響、特に神経行動学的発達（中枢神経）への影響に着目（理由）

(2) 成人への影響

着目すべき標的器官（理由）

2. 用量-反応評価

(1) 曝露指標

血中鉛濃度（理由）

(2) 影響指標

小児：IQに着目（理由）、交絡因子の影響

成人：着目すべき標的器官の影響指標（理由）

(3) 疫学調査

①小児の神経行動学的発達への影響に関する研究

総括レビュー → エンドポイントの設定

②成人への影響に関する研究

総括レビュー → エンドポイントの設定

(4) 摂取量変換モデル

血中鉛濃度と鉛摂取量との相関式又は変換係数を用いた推定（根拠）

(5) 耐容摂取量の設定

①小児における耐容摂取量

②成人における耐容摂取量

3. 日本人の鉛曝露量

4. ハイリスクグループ

XI. 結論

XII. まとめ及び今後の課題